

生徒が主体的に課題に取り組み、考えを伝え合う社会科授業
～「単元構成の工夫」と「思考を促す取組」を通して～



主体的に
取り組む

社会科
授業

考えを
伝え合う



御船町立御船中学校
教諭 山本貴一

はじめに

新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成をめざす資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に整理されました。これらの資質・能力を育成するためには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要です。私自身これまでの自分の授業を見直し、本気で授業改革に取り組む以外方法はないと感じたところです。

私が担当する3年生社会科では、特に授業改善が必要でした。子どもたちからは、「社会の授業は先生の説明ばかりで、授業がおもしろくない。」、「1時間の授業で勉強したことは分かるけど、ずっと続けると、いつ何を勉強したのか分からない。結局暗記教科。」、「発表したいけど、発表する前に、考え方が分からない。」といった声が挙がりました。そのような子どもたちは、授業には関心を持たず、学習課題からは離れていきました。どうにかして、子どもたちを授業にひきつけ、理解を深めたい。「主体的に課題解決に取り組み、考えを伝え合う社会科授業」を目指して、「単元構成の工夫」、「思考を促す取組」を柱として、授業の工夫改善を図ることにしました。

今回、私自身の社会科授業の中で実践した内容をささやかですが論文にまとめました。まだ、研究は緒に就いたばかりで試行錯誤しながら取り組んでいるところです。成果が現れたと言える段階ではありませんが、手応えを少しずつ感じています。今後も研究を継続していき、授業力の向上を図り、生徒の笑顔に結びつけていきたいと考えています。

目次

はじめに

ページ

I 研究の概要

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 研究主題 | 1 |
| 2 | 主題設定の理由 | 1 |
| 3 | 研究の内容 | 2 |

II 研究の実際

1 単元構成の工夫

- | | | |
|-----|-------------------|---|
| (1) | 単元を意識した授業づくり | |
| ア | 授業づくりの設計 | 3 |
| イ | 単元の構成 | 6 |
| (2) | 単元の中の一単位時間の工夫 | |
| ア | 単元の導入の時間の工夫 | 7 |
| イ | 知識及び技能の「習得」の時間の工夫 | 8 |

2 思考を促す取組

- | | | |
|-----|-----------------------|----|
| (1) | 主発問の設定 | 9 |
| (2) | 「思考スキル」と「思考ツール」の活用 | |
| ア | 「思考スキル」と「思考ツール」の整理、活用 | 10 |
| イ | 思考ツールを活用した「工夫ある発表」 | 13 |
| (3) | 資料の精選 | 14 |

III 研究の成果と課題

- | | | |
|---|---------|----|
| 1 | 仮説1について | 17 |
| 2 | 仮説2について | 18 |

おわりに

I 研究の概要

1 研究主題

生徒が主体的に課題に取り組み、考えを伝え合う社会科授業
～「単元構成の工夫」と「思考を促す取組」を通して～

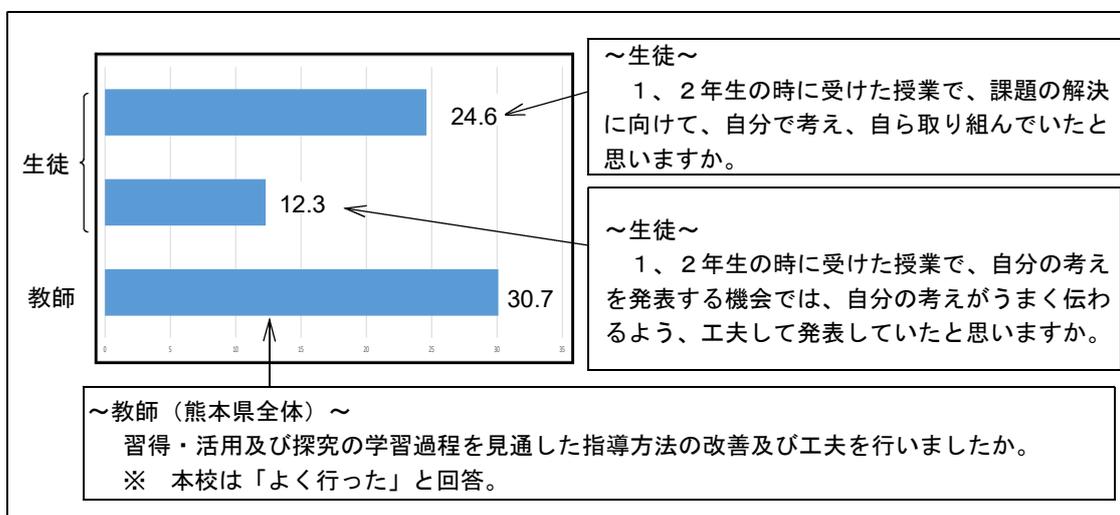
2 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成をめざす資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に整理した。これらの資質・能力を育成するためには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要であり、単元・題材のまとまりなどを見通して、「習得」の場面と「活用」、「探究」の場面など、全体のバランスをとる「授業デザイン」が重要となる。

(2) 本校生徒の実態から

今年度の4月に実施した全国学力・学習状況調査の生徒質問紙及び学校質問紙からは「主体的・対話的で深い学び」に関し、次のような結果がみられた。



教師は指導方法の改善及び工夫を行ったと回答しているが、生徒の授業に対する意識とは差が見られる。これまでの教師による指導の工夫改善が効果的であったかを検証し、生徒自身が「主体的に課題に取り組みたい」と考え、「自分の考えを工夫して伝えることができた」と実感できるような取組を行う必要がある。

(3) 本校社会科の実態から

社会科学習を行うにあたって、私の担当する本校3年生にアンケートを実施した。その結果は以下のとおりである。(平成30年1学期実施)

ア 授業への意欲について

- 「社会科の授業で主体的に課題解決に取り組んでいる」「どちらかというに取り組んでいる」と回答する生徒は約3割にとどまり、7割近くが「取り組んでいない」や「どちらかというに取り組んでいない」と回答した。
- 「取り組んでいない」「どちらかというに取り組んでいない」と回答した理由
 - ・ 毎時間の授業のめあてと学習したことはよく分かるが、何時間も続くと何をいつ勉強したか分からなくなり、暗記すればいいやと思ってしまうから。
 - ・ 課題を解決するというより、先生の話ばかりでおもしろくないから。

イ 授業での発表等について

- 「工夫して発表できていると思う」「どちらかという工夫して発表できている」と回答する生徒は1割強であった。
- 「工夫して発表できていない」と回答した理由
 - ・ 自分の考えを書くまでで精一杯だから。
 - ・ 発表の仕方に自信がないから。

生徒の意見から、これまでの授業が単元全体のまとまりを意識した授業ではないために、一単位時間の学びについては理解できても、それと今までの知識を結びつけたり、獲得した知識及び技能を生かしたりする場面がないために、生徒の課題に取り組む意欲を低下させていることが分かる。また、教師は「生徒が発表すること」にこだわっているが、生徒はその前段階で悩み、「工夫ある発表」にはつながっていないことも分かる。

以上のような点から、本研究主題を設定し、「単元構成の工夫」と「思考を促す取組」を行うことにした。

3 研究の内容

(1) 研究の仮説

《仮説1》

授業において、単元のまとまりを意識した「単元構成の工夫」を図っていけば、生徒が単元や授業への見通しを持ち、課題の解決に向けて、自ら考え、自ら取り組むようになるであろう。

《仮説 2》

授業において、思考スキルと思考ツールの活用など、「思考を促す取組」を行っていけば、生徒が自分の考えを持ち、工夫して考えを伝えることができるであろう。

(2) 研究の視点と具体的実践項目

ア 仮説 1 について	「単元構成の工夫」
(ア) 単元のまとまりを意識した授業づくり	
○ 授業づくりの設計	○ 単元の構成
(イ) 単元の中の一単位時間の工夫	
○ 単元の導入の時間の工夫	○ 知識及び技能の「習得」の時間の工夫
イ 仮説 2 について	「思考を促す取組」
(ア) 主発問の設定	
(イ) 「思考スキル」と「思考ツール」の活用	
○ 「思考スキル」と「思考ツール」の整理、活用	
○ 思考ツールを活用した「工夫ある発表」	
(ウ) 資料の精選	

II 研究の実際

1 単元構成の工夫

これまでの授業づくりのプロセスは、本時に教えるべき教科書の該当ページの内容を、板書を意識しながら整理し、教材と学習活動を設定するという流れであった。このプロセスでは、教師の主たる関心が、予定通りに教科書をこなすことに向かい、その結果、定期テストの出題範囲でも「教科書〇〇ページ～」という形で生徒に示すことが通例化してしまい、生徒はテスト直前に教科書の該当ページをめくり、暗記に努めることとなる。このような授業では、生徒が課題の解決に向けて、自ら考え、取り組むようにはならない。そこで、単元のまとまりを意識した授業づくり等、単元構成の工夫を行うことにした。

(1) 単元のまとまりを意識した授業づくり

ア 授業づくりの設計

これまでの、授業づくりのプロセスを見直し、単元のまとまりを意識した授業づく

りを行った。基本的な手順は次の通りとなる。

～単元のまとまりを意識した授業づくりの設計～

- ① 教科の目標（公民としての資質・能力の育成）を意識して、その単元で育成すべき資質・能力を知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等という3つの柱の視点から整理し、評価規準を作成する。
- ② 評価規準から一単位時間の「目標」を設定し、それを基に、評価の手立てを確定し、それぞれについて3段階程度の評価基準を作成する。
- ③ 授業展開を想定して教材や学習活動を設定する。

～単元のまとまりを意識した授業づくり設計～ 事例1 「国の政治の仕組み」

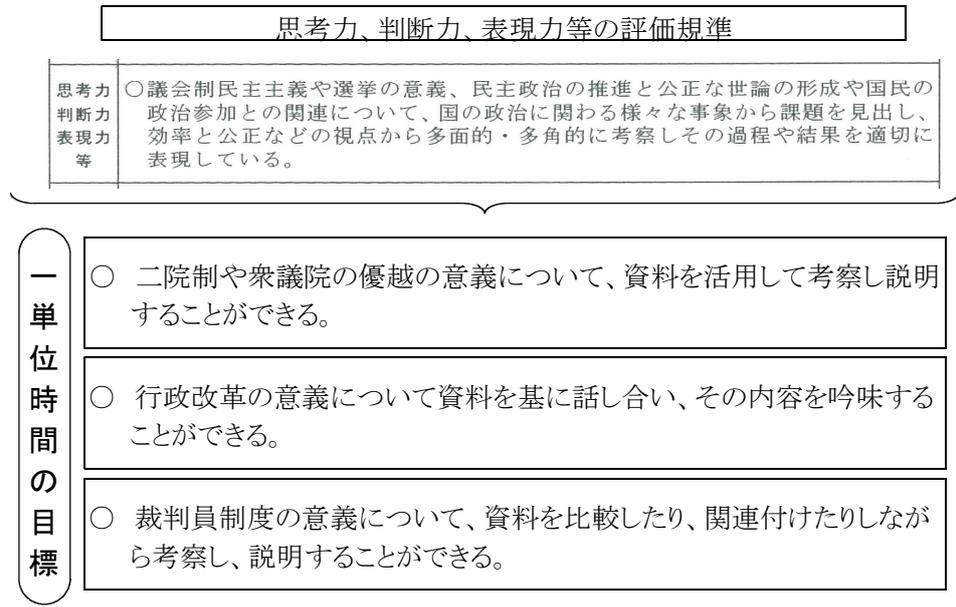
①－1 本単元で育成すべき資質・能力の整理

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義、民主政治の意義について、個人と社会との関わりを中心に理解を深めさせる。 ○諸資料から国の政治に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
思・判・表等	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義や民主政治の意義、特色について、社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察させる。 ○民主主義や民主政治に見られる課題について、思考・判断したことを説明したり、議論したりする力を養う。
人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義や民主政治に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

①－2 評価規準の作成

知識技能	<ul style="list-style-type: none"> ○国会を中心とする我が国の民主政治のあらまし、政党の役割、多数決の原理とその運用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障について理解し、その知識を身に付けている。 ○国の政治に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。
思考力判断力表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○議会制民主主義や選挙の意義、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について、国の政治に関わる様々な事象から課題を見出し、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察しその過程や結果を適切に表現している。
人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○国の政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとしている。

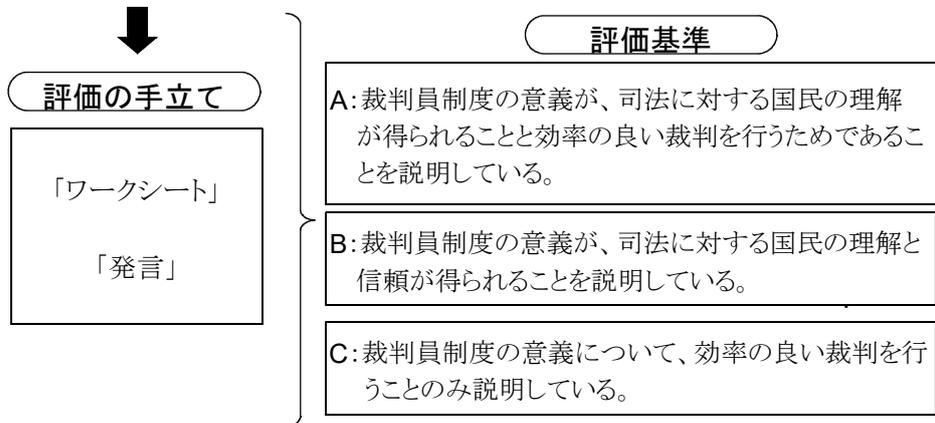
②-1 一単位時間の「目標」の設定（思考力、判断力、表現力等を例に）



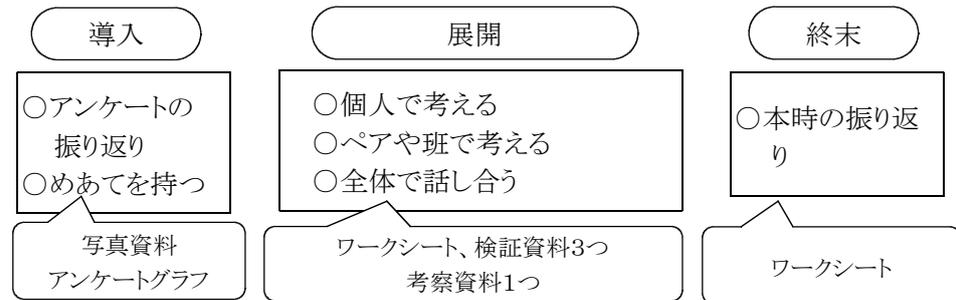
②-2 評価の手立てと評価基準の作成

（「裁判員制度の意義」を例に）

○ 裁判員制度の意義について、資料を比較したり、関連付けたりしながら考察し、説明することができる。（思考力、判断力、表現力等）



③ 授業展開の想定と教材、学習活動の設定



イ 単元の構成

授業づくりと同時に単元全体の構成に配慮した。ポイントは以下の通りである。

～単元を構成する際のポイント～

- ① 単元のゴールでの生徒の姿を明確にし、それに向かう「単元を貫く課題」を設定する。
- ② 課題に沿って、単元の中を小單元ごとに整理する。
- ③ 小單元の中の一単位時間に、その時間で育成すべき資質や能力にそった学習活動を設定する。
- ④ 「習得」、「活用」、「探究」の時間がバランス良く配分されるようにする。

～単元の構成～ 事例2 「国の政治の仕組み」

単元計画 (1 時間扱い・本時9 時間目)	学習活動	指導上の留意点	評価基準と評価方法
1	○国会の地位と仕組みを調べる。 ○追究課題を持つ。	・国会に関するクイズを取り入れ、学習への関心を持つようにする。	知識・理解 (小テスト) 国会の地位と仕組みについてまとめ、理解している。
単元を通した課題 国の政治の仕組みにはどんな「意義」があるのか考え、自分たちができることを話し合う。			
1	○二院制や衆議院の優越の意義について考察し、話し合う。	・「比較する」という思考スキルを活用して自分の考えを記述しやすくするため、ベン図を用いる。	思考・判断・表現 (ノート・発言) 二院制や衆議院の優越の意義について、国民の意見を広く取り入れる意味があることを説明している。
1	○国会の働きを図や文にまとめる。	・活用するキーワードを明確にし、図や文でまとめることで理解の定着を図る。	技能 (ノート) 国会の働きについて、キーワードを用いて、図や文章にまとめる。
2	○内閣の仕組みと内閣について調べる。	行政に関するクイズを生徒に作らせ、出題し合い、理解する場を設定する。	知識・理解 (小テスト) 行政の仕組みと内閣についてまとめ、理解している。
1	○行政改革の意義について考察し、話し合う。	・「比較する」「関連付ける」という思考スキルを活用して自分の考えを記述しやすくするため、マトリックスを用いる。	思考・判断・表現 (ノート・発言) 行政改革の意義について、行政改革を行うことが効率の良い政治につながっていることを説明している。
3	○裁判所の仕組みと働きを調べる。	・裁判所の仕組みをまとめ、互いに説明し合う場を設定し、理解の定着を図る。	知識・理解 (小テスト) 裁判所の仕組みと働きについてまとめ、理解している。
1	○裁判の種類と人権について図や文でまとめる。	・前小単元での学び方を振り返らせ、主体的に図や文でまとめ、理解の定着を図る。	技能 (ノート) 裁判の種類と人権について、キーワードを用いて、図や文章にまとめている。
1	○裁判員制度の意義を考察するための資料を収集する。	・「他国の裁判員制度」、「民事裁判で裁判員制度を行わない理由」等の観点から資料を収集する。	技能 (ノート・観察) 裁判員制度の意義を考察するための資料を、1つ以上収集している。
1	○収集した資料を活用して、裁判員制度の意義を考察し、話し合う。	・「比較する」「関連付ける」という思考スキルを活用するため、マトリックスを用いる。	思考・判断・表現 (ノート・発言) 裁判員制度の意義について、裁判員制度により、司法に対する国民の理解と信頼が得られることを説明している。
1	○模擬裁判に、自分の考えを持って参加する。	・争点について、「公正」の観点から、自分の意見をまとめる。	関心・意欲・態度 (ノート・発言) 模擬裁判に意欲的に参加し、争点について、公正の視点から意見をまとめる。
4	○三権相互の関係について、考察し、話し合う。	・「もし、三つの権利が同じ人間によって行使されていたら」という発問により、これまでの学習で身に付けた知識や技能、思考したこと活用を図る。	思考・判断・表現 (ノート・発言) 三権相互の関係について、三権分立が国民の自由や権利を守ることを説明している。
単元ゴールの生徒の姿 国の政治をよりよく運営していく仕組みやあらましについて理解し、主権者として、主体的に政治に参加しようとする生徒			

小單元に整理して課題を追究する

単元を貫く課題を設定することで、一貫した流れで生徒が学習を行い、学びのつながりが図られる。

単元の中に「習得」「活用」「探究」をバランス良く配分することで、資質・能力を育成しやすくする。

知識・技能を確実に習得させ、その活用を図ることで思考力・判断力・表現力等を育てていく。探究の時間に学びに向かう人間性を育む。

単元ゴールの生徒の姿を初めに想定し、それに向かって課題を設定し単元を構成する。

習得
習得
習得
活用
探究

(2) 単元の中の一単位時間の工夫

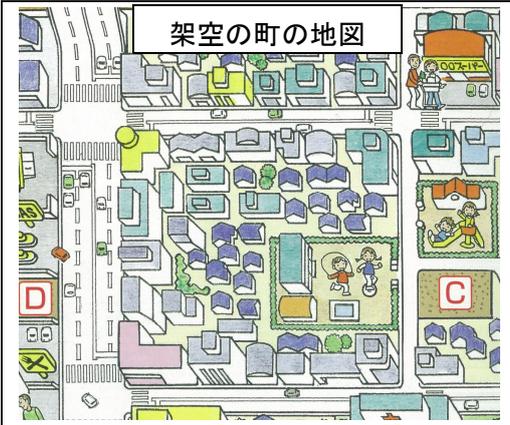
ア 単元の導入の時間の工夫

単元の導入の時間は、その単元を学ぶ意義をつかむ大切な時間である。単元とどう出会わせるかによって、生徒の学ぶ意欲も変わる。次のような工夫を行った。

～単元の導入の授業～ 事例3 「生産と労働」

① 単元全体に関わる資料を活用して、事象に対するシミュレーションを行う。

シミュレーション 「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」





② シミュレーションを通して生徒が考えた事象に対する「疑問」を整理する。



企業っていったい何？どんなものがあるの？

お店を建てる時の資金はどうやって集めるのかな？

どんな人を、どうやって雇えばいいのかな？

商品を売るだけでいいのかな？他にやることは？

③ 単元の学習課題を設定する。

学習課題：経営者になって、理想とする企業を考えよう！

④ 単元の流れを示し、各時間の授業に入る。

1 企業の基本について調べよう	→	企業の種類と課題
2 資金を集めるための方法を考えよう！	→	株式会社の仕組み
3 労働者を雇うことについて考えよう！	→	労働の意義と権利
4 企業の活動について考えよう！	→	企業の社会的責任

イ 知識・技能の「習得」の時間の工夫

これまでの授業では、授業で身に付けるべき基礎的・基本的な知識及び技能が生徒にとって「一単位時間の中の覚えるべき語句」として認識されていた。そして、そのことが、「社会科は暗記教科であり、主体的に課題に取り組めない」と生徒に感じさせる原因となっていた。これを解消するためにも知識及び技能の「習得」の時間の時間の授業では、次のような工夫を行った。

～知識及び技能の「習得」の時間の工夫～

事例4「生産と労働」より「株式会社の仕組み」

- ① 単元の学習課題を振り返り、本時のめあてを持つ。

学習課題：経営者になって、理想とする企業を考えよう！

理想とする企業をつくるには、資金を集める必要があるという話だったよね。どうやって資金を集めたらいいんだろう。みんなのおうちの人ももしかしたら経営者の人がいるんじゃないかな？



僕の家は建設会社です。名前は〇〇建設株式会社です。父と親戚の人が経営しています。

〇〇君のおうちの企業のように、世の中には、どうも「株式会社」という仕組みで資金を集めている企業があるようです。理想とする企業をつくるためにも、今日は、株式会社について調べてみよう。

本時のめあて：株式会社の仕組みを調べ、それを理解しよう！

- ② めあてにそって基礎的・基本的な知識を調査、整理し、生徒が板書にまとめる。

本時の基礎的・基本的な知識
「株式会社」、「株式」、「株主」
「配当金」、「株主総会」等



- ③ 調査した知識をグループで確認し、説明し合う時間を設定する。

- ④ 本時に関するワークや小テストに取り組み、習得する。



株式会社とは・・・
です。
この仕組みだと、資金を一気に集めることができます。



習得の時間こそ、教師による一方的な説明ではなく、生徒に調査、整理させ、互いに説明し合う場を設定することで、意欲的な学習につながっている。また目的のある「習得」は、「語句」の理解にとどまらず、その意味まで含めたところの理解にもつながっている。さらには、次時の「活用」の時間に、習得した知識・技能を活用することで、さらなる習得につながっている。

2 思考を促す取組

これまでの授業でも、生徒が発表を行い、それを基に話し合いを展開するという授業スタイルに心がけてきた。しかし、生徒の実態調査より、それが決して工夫ある発表とはなっておらず、それどころか、その前段階の「考える」場面で悩む生徒が多いという実態が分かった。そこで、生徒が自分の考えを持ちやすく、なおかつそれが工夫ある発表につながるよう「思考スキルと思考ツールの活用」など「思考を促す取組」を行うこととした。

(1) 主発問の設定

一時間の授業の導入では、「主発問」を設定することにした。主発問を設定することで、主発問を軸とした課題が生徒たちの中に生まれ、その課題解決をどのように図るのか、思考を促すことができる。

～主発問の設定～ 事例5 「現代の民主政治」より「マスメディアと世論」

① 毎日、新聞記事にはたくさんのニュースが載ってくるね。みんなはどのニュースが...

② みんなのアンケートによると、一番信用できる情報は「新聞」と答えている人が6割もいるよ。

③ でも、別のアンケートだと、新聞を毎日読むという人は一人もいないよ！すごい矛盾だね。もう新聞じゃなくてネット記事を読んだらいいのに。

主発問

めあて

新聞じゃなくても、ネット記事を見ればいんじゃないの？

めあて 新聞の良さについて考えよう！

主発問を設定する際には、生徒の既知を覆すような資料提示をしたり、アンケート調査の結果から生徒の中にあるの矛盾に気付かせたりすることで、生徒に問題意識を持たせることができる。特にアンケート調査による意識の矛盾に気付かせるのは効果的だと実感している。主発問を提示したあとに、めあてを設定すると、「何のためにどのような活動をするのか」も明確になる。

(2) 「思考スキル」と「思考ツール」の活用

ア 「思考スキル」と「思考ツール」の整理、活用

これまで、生徒に「考えましょう」という指示を多くしてきたが、それで何をしてもよいか分からず、戸惑う生徒が多かった。そこで「考えましょう」という指示を具体的に、生徒が活動しやすくなるために思考スキルを取り入れることにした。なお、思考スキルとは、「思考を深めるために考える方法を具体的に分類すること」である。

～主な思考スキル例～

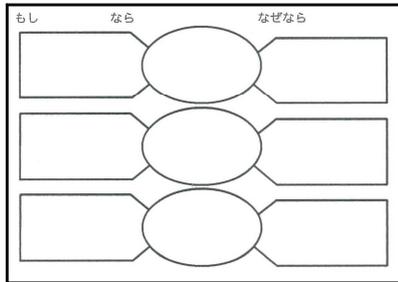
「比較する」「関連付ける」「順序立てる」「理由付ける」「構造化する」
 「筋道を立てる」「変化を捉える」「推論する」「分類する」「見通す」

これまでの指示	思考スキルを取り入れた指示例
資料から、気付くことを考えましょう。	資料から「 変化したこと 」を書きましょう。 資料から「 理由となること 」を見つけましょう。
2つの資料から、分かることを考えましょう。	2つの資料を「 比較したり、関連付けたり 」して、考えられることを書きましょう。
〇〇を参考に考えましょう。	〇〇と「 関連付けて 」書きましょう。

さらに、どの思考スキルにどのようなツールが効果的であるか、思考ツールを整理することにした。思考ツールとは、「思考の過程を共有したり、可視化したりする道具」である。

思考スキル	考えの進め方や考えをイメージさせる手順	思考ツール例
比較する	・相違点や共通点を見つけだす	ベン図、マトリックス
関連付ける	・既習事項や経験、資料同士の事柄を結びつける	コンセプトマップ
分類する	・いくつかのまとまりに区分する	Xチャート
推論する	・結果を予想し、その理由付けを整理する	キャンディ・チャート

～思考ツールの活用～ 事例6 「国の政治の仕組み」より国会の地位と仕組み
キャンディ・チャートのアレンジ版（生徒のワークシートより）



左がキャンディチャートの一般的な型である。社会科の授業では、資料からではなく経験や習得した知識を根拠として考察していく際、推論することによって事象の意味に到達することが多い。ワークシートや板書に合わせ、次のような型を試みた。

① めあてを記入し、本時で学習すべきことを自分のものとする。

② 思考ツールに取り組む。個人→班→全体

推論する
題材を提示する。

推論される結果を記入する。

③ 自分の言葉でまとめを記入する。

p84 [1 国会の地位と仕組み②]

1 めあて 二院制の意義について考えよう!!!

2 思考1 「二院制の意義」

もし	結果	理由	まとめ
一院制で政治をしたら...	<p>目的意識で話し合いが進んでいない。</p> <p>早く、いい加減な決定にたどり着く。</p> <p>資料の意見が豊富にある。</p>	<p>なぜなら話し合いの場が不足しているから。</p> <p>二あると時間がかかるといけないのでそれだけ早く話し合えるから。</p> <p>なぜ、1の院で決まってしまうのか。話し合いを参考にして話し合えるから。</p>	<p>国民の意見をより取り入れることができる。</p>

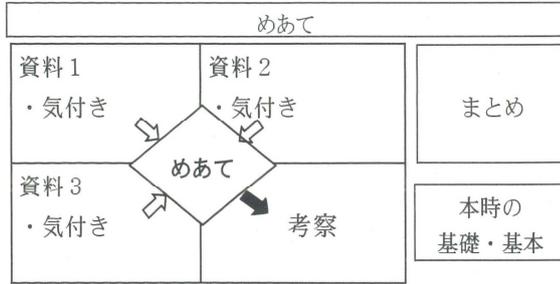
4 まとめ 二院制の意義は二つあり、一つは国民の意見をより取り入れることができる。

そのような結果になる理由を記入する。
※知識や経験が反映される。

推論から導き出された解答を記入する。

～思考ツールの活用～ 事例7 「国の政治の仕組み」より裁判員制度の意義

コアマトリックス (生徒のワークシートより)



左がコアマトリックスである。社会科の授業は、資料を根拠として考察していくことがほとんどであり、その際「比較する」「関連付ける」という思考スキルを多用することになる。

この「比較する」「関連付ける」という思考スキルが生徒には難しく、どのようなツールが最適か試行錯誤を重ねた。その結果、コアマトリックスが、生徒たちアンケートからも好評であり、後述する「工夫ある発表」にも結びつくことが分かった。

① 主発問→めあてを記入し、本時で学習すべきことを自分のものとする。

	法曹	裁判官
フランス	80人	4人
アメリカ	365人	10人
日本	20人	2人

3つの資料それぞれから読み取れることを記入する。

② 思考ツールに取り組む。個人→班→全体

③ まとめとそれを受けての自分の考えを記入する。

3つの資料から読み取ったことを比較、関連付けて考察する。

イ 思考ツールを活用した「工夫ある発表」

思考ツールを活用することで、生徒たちが自分の考えを持ちやすくなり、意欲的に書く活動に取り組むようになった。次の段階として、思考ツールによる板書を活用して生徒の「工夫ある発表」につなげることにした。

～思考ツール活用した「工夫ある発表」～

事例7 「国の政治の仕組み」より裁判員制度の意義 コアマトリックス

板書の全体像

工夫ある生徒の発表

①

私は裁判員制度の意義は・・・と思います。なぜなら、資料1と資料2から・・・です。

②

僕は資料2と資料3が一番裁判員制度の意義を表していると思います。なぜなら、・・・です。

③

みんな素晴らしい意見発表だったけど、どの人の考えが一番説得力があるかな？

④

僕は、Aさんの意見が説得力があると思います。資料を全て使って、比べたことが含まれているからです。

- 16 -

コアマトリックスを活用した発表は、どの資料を活用しているのかが発表者にも聞いている生徒にも可視化され、大変分かりやすい発表につながっている。さらには、自分の書いた意見と他の生徒が書いた意見の共通点にチョークで囲みをして発表するなど、他の生徒と自分の意見との比較、関連付けも図られるようになった。これまでよりも工夫ある発表ができており、互いの考えを伝え合う話し合い活動へとつながっている。

(3) 資料の精選

社会科の授業にとって、資料は生徒の思考を促す最大の材料である。だからこそ、「資料を活用する目的」、「活用場面」、そして「提示の工夫」をセットで考えて資料を選択する必要がある。生徒の思考を促すことを考え、資料を選択するには次のような点に留意することにした。

～資料選択の留意点～

活用場面	資料を活用する目的	主な提示の工夫
導入	○生徒を授業内容にひきつける。 ○問題意識を持たせ学習課題をつかませる。	部分提示 クイズ形式の提示
展開	○予想を持たせる。 ○予想を考察、検証する。 ○考察、検証したことを練り上げる。	部分提示、アップルーズ 資料提示の順番の工夫 資料の数、種類の工夫
終末	○学習したことを習得させる。 ○次時への関心を持たせる。	G Tの活用 フラッシュカード

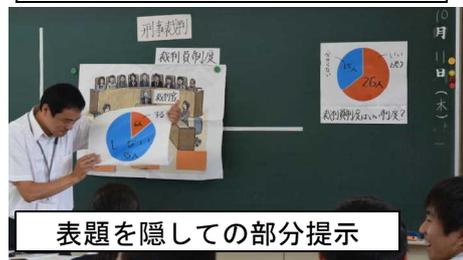
～導入での資料の精選と活用例～

生徒にとって身近なものの活用



クイズ形式での提示

アンケートの活用



表題を隠しての部分提示

導入の資料は、生徒にとって思考の導入部にあたり、課題設定の鍵を握る重要なものである。特に「アンケート結果の提示」は事象を自分の生活と重ね合わせやすく、展開部で自分を振り返って、思考を促すのに効果的だと感じる。

～展開部での資料の精選と活用～ 事例8 「国の政治の仕組み」より裁判員制度

展開部では、最も生徒の思考を促さなくてはならない。これまでも生徒の思考の流れを考えながら、写真資料やグラフ資料、文献資料といった資料の精選に努めてきた。しかし、最も生徒の思考を促すことができるのは、資料そのものに生徒が関心を示すことが重要だと考えた。そこで今回、単元構成の工夫と合わせて、単元の中に生徒自身が課題解決に向けて資料を収集する時間を設定し、その資料を展開部での検証資料、考察資料として活用することにした。

資料収集ワークシート

p96〔7 裁判員制度と司法制度改革①〕

めあて 裁判員制度を調べる資料を

1 下の①～⑤の中からどれかを選んで調査しよう！
2 調査したことをメモしたり、文にまとめたりしよう！
図やグラフ、イラストでもよし！

※ 選んだ番号 → ③

Q. 裁判員として参加したことはどんな経験だった？

非常によい経験だった 55, 2%	よい経験だった 40, 3%	あまりよい経験と 感じなかった
----------------------	-------------------	--------------------

10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 0.5%

メリット

- 国民が社会構成員としての役割をになうことが出来る
- 社会常識では考えられない判決を未然に防ぎ、司法に対する国民からの信頼を得ることが出来る
- 司法への関心が高まる

デメリット

- 被害者の死体を写真で見ることもあり、精神的ダメージをうけることがある
- 逆恨みされるリスクがある
- 裁判員による刑罰が変わること
- 社会人の参加が難しい

その他

考察のための資料

生徒の収集した資料から、さらに吟味して、授業での生徒の思考の流れにあうものをワークシートや板書上に掲示する。自分が収集した資料ももちろん活用してよい。

検証のための資料

	人口	法曹人口 (1人あたり10人)	裁判官	検察官	弁護士
フランス	59,630,000	47,347 (79.09)	3,237	1,857	40,233
アメリカ	293,655,000	1,072,863 (365.35)	31,281	34,799	1,006,783
日本	127,887,000	25,213 (19.73)	2,460	1,568	21,205

① 日本とフランスは裁判官の数が検察官の数より多い。
② アメリカは裁判官の数が少ない。
③ アメリカは最も高い。

生徒自身が収集した資料は、生徒たちにとって、教師が準備する資料よりも、はるかに価値があり、課題に主体的に取り組む意欲の向上と思考を促すことにつながっている。また、学級によって扱う資料も異なっており、他学級が調査した資料も紹介することで、多面的・多角的な見方、考え方にもつながっている。

さらに、展開部では、複数の資料を提示する場合、生徒の思考の流れが促されるよう、提示する順番や提示場所にもこだわった。主に県学力調査の問題配列や資料配列を参考にしながら読み取りが容易なものから難しいものに、また、比較や関連付けがしやすいものを隣同士にするなど工夫を凝らした。

①棒グラフ
読み取りが最も容易で、これだけでも考察ができるものをまず提示する。

②表資料
表の中の情報を読み取った上で、①と比較しやすいものを提示する。

特に比較しやすい資料同士を配列

③写真・文献資料 これだけでは、課題解決の考察は難しいが、①②と関連付けることにより考察資料となるものを提示する。

～終末での資料の精選と活用～

終末は、一時間の学習で学んだことを再確認したり、振り返ったりする場である。私はあえて、G Tを展開部の検証資料ではなく、終末での資料として活用を試みた。

社会保障の仕組み

現代の民主政治

日本年金機構より講師を招聘し、少子高齢化に向けて中学生が今できることを語っていただいた。

メディアリテラシーについて詳しい本校支援員(元警察官)を講師として招聘し、情報を正しく読み取ることの大切さを説明していただいた。

G Tを終末部で活用することで、生徒たちが一時間の学習の振り返りをしたことに専門家からの意見として価値付けができ、学習に余韻を残すことができた。

III 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

1 仮説1について

【県学力調査生徒質問紙調査「社会の勉強は楽しいですか？」】

- 今年度の県学力調査生徒質問紙調査より、私の担当する3年生社会科では、授業の関心度について、右表のような結果となった。「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」と答えた生徒が約8割となり、

とても	まあまあ	どちらでもない
33.0%	45.2%	13.0%
あまり楽しくない	全く楽しくない	
7.0%	1.8%	

3割しか「課題に主体的に取り組んでいる」と答えていない4月当初と比べ、大幅な改善が見られた。授業に関する記述アンケートでも次のような回答が見られた。

社会の授業は、先生ばかりがしゃべる時間が減って、自分で学習する時間が増えたのでとても楽しくなりました。毎日社会があってほしいです。(男子生徒)

私も将来、会社を経営したいと思っています。そのために、いろいろな仕組みを覚えて、理解することが大切だと分かりました。(女子生徒)

裁判員制度の意義の授業が印象に残っています。裁判員制度に選ばれても絶対に参加しないと思っていたけど、世の中のためにできることはしたいです。公民を学習している意味が分かったような気がします。(男子生徒)

このような変化が見られたのも、「単元を意識した授業づくり」により、生徒がその単元を学ぶ意味と身に付けなければならない資質や能力を意識できるようになったこと、「単元の中の一単位時間の工夫」により、その授業で「何を学ぶのか」が生徒にとって分かりやすくなったことがあげられる。

- 単元構成の工夫については、次のような意見も生徒から寄せられている。

一つの教科書の内容(単元)の終わりに、いつも同じような感想文をまとめている気がする。(男子生徒)

前の日に覚えたことを、次の日に使って考えるというパターンが多い。(女子生徒)

今回の研究では、単元の導入と習得の時間に力を入れた。今後は単元の終わりの授業の工夫にも取り組む必要がある。また、単元を構成する際、「習得→活用」という授業の流れが多くなり、単元構成のマンネリ化も否めない。様々な単元構成に努めるとともに、「習得→活用」という学び方を、最初の小単元で生徒に定着させ、後の小単元は生

徒自身が、主体的に課題解決を進めていくような工夫も図りたい。

2 仮説2について

- 今年度の2学期末テストでの、3年生社 【定期テスト定着率 H30,11月御船中3年生社会】

社会科の定着率は右表のようになった。

関心・意欲・態度と思考・判断・表現の定着率が高い数値を示し、当初課題となっていた「自分の考えを説明する問題」について、少しずつ向上が見られるようになった。

観点	定着率	無答・誤答率
関・意・態	68.0%	10.7%
思・判・表	57.0%	4.9%
技	53.0%	5.8%
知・理	47.0%	13.2%

これも思考スキルと思考ツールを活用したことで、生徒が「何をどう考えればよいか」という「考える道筋」が分かるようになったこと、資料の精選に努めたことで、その資料が何を考察するための材料かという、資料を吟味する力も向上した結果だと言える。技能の定着率も53.0%と5割を超える結果を示した。「思考を促す取組」が効果的であることが検証できた。

- 定期テストの結果から、「知識」の習得には課題があることが明らかになった。これまで、「思考力、判断力、表現力等」の育成にスポットを当ててきたが、その土台となる知識が習得されなければ、思考力等の育成はなされない。無答・誤答率も他の観点より高い。生徒の感想の中にも「思考の黒板の中に大切な言葉とその意味が分かるような工夫をしてほしい。」や『使うキーワード』と『それを使って考えたこと』という黒板は単純で分かりやすいです。」「思考の授業はノートに取りにくい。」といった意見が寄せられた。私自身「思考させること」に意識が向きすぎており、知識の習得が図られるような取組を今後行いたい。

- 県学力調査生徒質問紙調査より、社会の授業は楽しいと感じていても「よく理解しているか」については低い数値を示していることが分かった。それは、定期テストでの関心・意欲・態度無答率が高いことから、意欲の高さが、必ずしも確実な定着につながっている訳ではないことを表していると言える。楽しい授業から「分かった」、「できた」という授業になるよう、今後も主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを推し進める必要がある。

【県学力調査生徒質問紙調査「社会科はどの程度理解できていますか？」】

よく	だいたい	どちらでもない
18.1%	48.3%	20.1%
あまりできてない	理解できていない	
12.1%	1.4%	

おわりに

「社会の授業は先生の説明ばかりで、結局は暗記教科。」「発表する前に考え方が分からない。」といった生徒の声を謙虚に受け止め、「生徒が主体的に課題に取り組むこと」と「自分の考えを持ち、それを伝えること」に重点を置いて授業づくりに取り組んできました。

その第一歩として、「単元のまとまりを意識した授業づくり」を試みました。その結果、生徒アンケートからは、主体的に課題に取り組もうとする関心・意欲が高まり、社会科の授業が待ち遠しいと答える生徒を増やすことができました。また「単元の中の一単位時間の授業の工夫」を行うことで、「何のために言葉を理解するのか分かりました。」という生徒の声も聞かれるようになりました。「思考を促す取組」では、「主発問の設定」と「思考スキルと思考ツールの活用」、「資料の精選」に力を入れました。思考スキルと思考ツールの活用では、「型にこだわって、本当に効果があるのか」という怖さが正直ありました。しかし、生き生きと活動をする生徒の姿を見て、自分の授業づくりに対する考えが大きく変わりました。学力の定着率としては、まだまだ結果が現れているわけではありませんが、今の実践にじっくり取り組んでいきたいと考えています。

研究は緒に就いたばかりで試行錯誤しながら取り組んでいるところです。今後も研究を継続して行い、授業力の向上を図っていきたいと考えています。

参考文献

- 「中学校学習指導要領解説－総則編－」文部科学省（2018）東山書房
- 「中学校学習指導要領解説－社会編－」文部科学省（2018）東洋館出版社
- 「中学校新学習指導要領 社会の授業づくり」原田智仁（2018）東洋館出版社
- 「授業の見方『主体的・対話的で深い学び』の授業改善」
澤井洋介（2017）東洋館出版社
- 「深い学びを育てる思考ツールを活用した授業実践」田村学（2018）小学館
- 「子どもの『学びに向かう力』を支える教師の『動き』と『言葉』」
立石泰之、松尾剛（2018）東洋館出版社